

令和2年 4月 18日

助成事業実施報告書

団体名 はむらプレーパークの会

代表者・役職名 氏名 代表 永川みつ子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないもの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

はむら de プレーパーク 2019 —自由な遊び場の常設化をめざして—

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

地域の子どもの遊びに何かが足りない…そう感じていた子育て世代の親たちが、「自分の責任で自由に遊ぶ」のプレーパーク精神を大切に、こども自身が考えて創る遊び場を提供したいと、2015 年に勉強会を開始。間もなく始まった市民提案型協働事業への応募をきっかけに団体を設立しました。2016 年から、年数回の遊び場、講演会など開催し、現在会員約 40 名で活動しています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

子どもの成長段階では、多少の危険が伴っても、遊びの中で自分の力を試し、失敗から学ぶ体験が欠かせません。時間・空間・仲間が揃えばそれが実現できるところ、いずれも足りていない現状があります。子どもが思う存分外で遊べず、結果としてゲームやスマホ漬けになっているのは、大人の責任が大きいと感じています。子どもの「やってみたい」気持ちを尊重し、安心して失敗できる遊びの場を提供することで、地域の子どもたちが経験や感情豊かに育ち、見守る大人たちのつながりも育ってくれるのを願って、プロジェクトを実施しています。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

放課後の遊びを充実させる場として、月1回の放課後プレーパークを開催。各回 15~25 名程の子どもや保護者が参加し、既成の遊具がない広場で、ハンモックや段ボール工作、こま、ロープ、水遊び等楽しみました。見知らぬ子同士でも遊びが広がるため、一人で来る子もいます。また、野外ならではの特別な体験もできる場として、年3回(今年度は3月中止で2回)の1日プレーパークでは、焚き火や木工、楽器、段ボールのほか、巨大ハンモックやターザンロープなどのロープ遊具を設置し、親子で丸1日楽しむ姿が多く見られました。初の試み「夜までプレーパーク」では、闇に包まれていく広場で、焚き火調理等行い、非日常の体験を楽しみました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

結果として、全9回の放課後プレーパークに計187人、2回の1日プレーパークに計322人、夜までプレーパークに38人、合計547人が参加。成果としては、継続してきたことで、開催を心待ちにしてくれる子ども(保護者も)が増えてきて、放課後では、スタッフに学校や友達のことなど話してくれることもあり、少しずつ第3の居場所としての役割も果たせるようになってきました。1日プレーパークでは、火の扱いがうまい子が増え、複数回参加すると「手や口を出さず見守る」保護者が増え、子どもの自由度が少しあがってきました。社会的な変化としては、市の議会だよりの巻頭3ページで紹介されるなど、活動の周知度があがってきました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

運営に関わるスタッフがなかなか増えず、マンパワー不足もあり、計画していた土曜の居場所が実施できませんでした。今後は、メールマガジンやフェイスブックを活用し、事業の魅力がもっと伝わるような情報発信を心がけていきたいと考えています。遊びの現場では、可能なら、大きな穴を掘ったり、どろんこ遊びをしたり、秘密基地を作ったりと、もっと動きや工夫の余地が多い遊びを増やしていきたいのですが、現時点では場所の制約が大きく、今後に向けて行政の協力も得ながら、少しずつ開拓していきたいところです。土曜の居場所もあきらめたわけではなく、次年度の実現に向けて動いていきます。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり · 特になし

はむら 1日 プレーパーク



プレーパークは自由な遊び場。やりたいことをやってみよう!

日時: 2019年 9月15日 (日) ごぜん10じ~ごご3じ
(雨ならつぎの日: 9月16日 (月) にやります)

場所: 堀下レクリエーション広場 (羽村市羽731)

さんかひ・もうしこみはいりません。出入り自由

主催・問合せ先 はむらプレーパークの会

メール hamurappa@gmail.com

電話: 080-6548-9952 (関口)、090-1263-9461 (永川)

小学2年生
以下はおとなと
一緒にきてね

たき火をやりたい
人は、やきたいものや
どうぐを
もってきてね



後援: 羽村市教育委員会

く本事業は「多摩地域市民活動公募助成」(真如苑助成事業)を受けています

はむら 1日 プレーパーク

LET'S
ENJOY
YAKI-IMO



ターザンロープ
もできるかな?



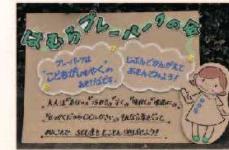
冬のおたのしみ、
おちばたきをやるよ!



せき下ひろば
ならではの
さかすべり!!



おとなはしづかに
みまります。
こども時代にかえって
あそぶのもいいね!



プレーパークは自由な遊び場。やりたいことをやってみよう!

日時: 2019年 12月8日 (日) 10:00~14:30
(雨なら: 12月15日 (日) にやります)

場所: 堀下レクリエーション広場 (羽村市羽731)

さんかひ・もうしこみはいりません。出入り自由

主催・問合せ先 はむらプレーパークの会

メール hamurappa@gmail.com

電話: 080-6548-9952 (関口)、090-1263-9461 (永川)

小学2年生
以下はおとなと
いっしょにきてね

たき火をやりたい
人は、やきたい
ものやどうぐを
もってきてね



後援: 羽村市教育委員会

く本事業は「多摩地域市民活動公募助成」(真如苑助成事業)を受けています

はむら
1日
プレー・パーク

ターザンロープ たのしいぞ!

たけでパウムクーヘン つくれてみようかなー?

ひよこりかみしばい があらわれるかも?!

はるだー そとであそぼ!

ふつうのおおきな ハンモックもにんき♪

プレーパークめいぶつ きよだいハンモック!!

おひるごはん じぶんでつくれてみる?

プレーパークは自由な遊び場。やりたいことをやってみよう!

日時: 2020年 3月 1日 (日) 10:00~15:00
(雨なら: 3月 8日 (日) にやります)

場所: 堀下レクリエーション広場 (羽村市羽731)

さんかひ・もうしこみはいりません。出入り自由

たき火をやりたい 人は、やきたい ものやどうぐを もってきてね

主催・問合せ先: はむらプレー・パークの会
メール: hamurappa@gmail.com
電話: 080-6548-9952 (関口)、090-1263-9461 (永川)

後援: 羽村市教育委員会

本事業は「多摩地域市民活動公募助成」(真如苑助成事業)を受けています

7/ 22 月

ここ2時~5時過ぎまで
(どなたでも。申し込み不要)

8/ 28 水

ほうかご ちょこっと
放課後 プレー・パーク

9/ 25 水

会のホームページ
でも
情報がみられます
くわしくは
こちらで!

QRコード

参加無料 (さんかむりょう)を
雨ならお休み

プレーパークは子どもがしゅやくのあそびばです。まだ小学生になっていない子は大人といっしょにきてね。

ばしょ おさくたい ごちょうの
小作台ら丁目ひろば

主催・問合せ先: はむらプレー・パークの会
メール: hamurappa@gmail.com
関口: 080-6548-9952 永川: 042-533-4630

後援: 羽村市教育委員会

本事業は「多摩地域市民活動公募助成」(真如苑助成事業)を受けています

おざくたいちょくせき
小作台5丁目広場への地図
駐車場はあります

羽村市小作台5丁目1番

グリーントリム公園



後援：羽村市教育委員会

<本事業は、「多摩地域市民活動公募助成」(真如苑助成事業)を受けています>



●夜までプレーパーク (全1回)

日の長い夏の夕に開催するつもりが、雨で延期になり、冬場の開催となりました。
寒い、暗い、でも楽しい！この場所ならではの非日常の体験ができました。でも、次回はやっぱり夏がいいな～



暗くなつては調理ができぬ。
明るいうちからはりきって
豚汁づくりです。



どんどん暗くなつてきます。この広場には外灯が
ありません。さあ、いつまで遊べるかな？

昼間とはまた違う焚き火にどきどきわくわく。



大人もどきどき。最後はこんなに暗くなつて、片付けもなかなかのチャレンジでした。

●番外編：水車小屋ふえす出店 「輪っかから作る輪投げ」

羽村のオアシス「根がらみ前水田」、稲刈り後の田んぼを広々と使ったこどもコーナーの中で
輪投げコーナーをやりました。わらや新聞紙を使って自分で輪っかを作ってから輪投げに挑戦。
おそらく日本一?!面倒くさい輪投げですが、のべ133人が参加してくれました（リピーター多。笑）



わらを器用になうことができる6年生。
学校の体験授業で覚えたそうです！

